

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600621		
法人名	有限会社 創		
事業所名	グループホーム ニコニコ創		
所在地	防府市上右田2458-1		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町受理日	平成22年12月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

過去の人生歴、生活歴をよくお聞きして、その方らしさを失うことなく、最適な生活を送るべく日々幸せを感じられるよう、職員一同、誠心誠意努力しています。一人一人、昔から馴染みある親しみを感じられる呼び名でお呼びし、家族的温もりを営んでおります。また、自由意志を尊重し、時間がかかっても、できるだけ本人が達成感を味わってもらう事を基本にしています。ユニットを「おだやか家」「すこやか家」と命名し、行ったり来たり、譲ったり譲られたり、遊びに行ったり来たり、友達の輪が広がるようにしています。家族の方々の声を大切に、なるべく来所していただくよう、努めています。地域の方々の来所、小学生、中学生、高校生のボランティア、看護学生の実習にも応じ、喜ばれています。当ホームは自然の美しさの囲いの中にあります。散歩コース佐波川の土手に沿って行い、毎日なくてはならない行事になっています。車イスに乗る人、押す人、共に歩む職員と、心と体の交流には最適です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は自己啓発としての日々の「思いの記録」を提出し、管理者は必要に応じて一緒に話し合い、検討し、思いや悩み、ケアの実際等把握することにより、離職防止や、働きやすい環境づくりに取り組まれています。利用者一人ひとりの日々の会話やつぶやきを「コトことばノート」に書きとめ、しっかり把握し、家族には職員手書きのニコニコ便りを送付するなど、利用者・家族・職員が一体となって支え合う支援がされています。職員の明るい言葉かけが利用者に伝わり、事業所全体の雰囲気がとてもよく、一家族として和やかに過ごされています。小・中・高校生の体験学習、看護学生の実習受け入れなど、地域社会との交流に取り組まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで理念を共有しつつ、ひとりひとりの利用者について話し合い、その人の幸せとは何かを考えつつ理念の実践に向けて取り組んでいる。	「この街で今を生きる、自分らしく、今を楽しく、幸せに、今を大切に、地域の中で当たり前に生きたい」という事業所理念を、職員は毎朝のミーティングで共通理解し、日々のケアに向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。また、地域の新年会、掃除等参加している。	自治会に加入し、事業所が地域の一員であり、職員は掃除や新年会に参加し、毎日の散歩で地域の人々と会話をしたり、野菜や花の差し入れなど地域との交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員さん等を通し、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価をする、しないに関係なく運営者、管理者、職員一同、改善に取り組んでいる。	職員は自己評価や外部評価を実施する意義を理解しており、評価後は運営者、管理者、全職員で話し合い、評価を活かしてケアの改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの出来事含め、困っていることなどもすべて話し、現状を知っていただき、それに対する意見もいただき活かしている。	定期的を開催し、自治会長、民生委員、市高齢障害課、市地域包括支援センター職員、家族、利用者、職員で利用者の生活状況や評価結果の取り組み等報告し、意見交換を行い、意見はサービスに活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例えば、家族とのトラブルで対処に困った場合や介護保険、契約、その他利用者のいろいろな事情について相談し助言を頂くなどしサービスの質の向上に取り組んでいる。	利用者の法的手続きやサービスの取り組み等積極的に相談し、助言をもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で話し合いをもうけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で身体拘束について話し合い、全職員は拘束について理解しており、玄関も開放的で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の目につくところに高齢者虐待の定義をはり、防止に努めている。また、毎日のミーティングにおいても、職員がストレスをためることがないように、しっかり話し合っている。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに、過去に1名、成年後見人制度を利用して利用者がおり、実践で学んだ。今現在も1名利用している方がおられ支援している。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約前に契約書を家に持ち帰ってもらい、熟読してもらうようにしている。そして、契約の際、説明と同時に疑問点などないか確認している。解約の時も、家族と話し合いを十分にしている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見等はこちらにすぐに話してもらえ、関係が築かれている(契約時より何でも話していただけるようにしており、こちらも話している)。契約書にも外部機関を明示しており、契約時にこちらに話せないときは遠慮なく電話してくださいと話している。	面会や電話でいつでも家族からの相談や苦情が話せる関係を築いている。契約書に相談、苦情等外部機関、第三者委員を明示し、運営に反映させるように取り組んでいる。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は密にいつも話しをしており、職員も積極的に話してくる。当然、いいものであれば、反映させている。	職員は日々の「思いの記録」を書いて管理者に提出している。提出された意見や提案を会議で話し合い、運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修などの参加はもちろん、家族への手紙、ケアプラン作成など経験に応じて職員それぞれに役割をもってやっている。	管理者は職員の日々の「思いの記録」等一人で一人ひとりのケアの実際や力量を把握している。研修は勤務の一環で参加し、復命伝達を行い、全職員に閲覧し、共有している。働きながらトレーニングしていくことを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会、小規模多機能連絡会に加入し、研修会、勉強会などへの参加、また、他市のグループホームと意見交換をするなどしサービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここで、よりよい生活をしてもらえるよう管理者、全職員、家族も含め努力をしている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話しはもちろん、利用予定者とも事前に面接をし、相手がどのような状態(進んだ認知症等)でも話しを聴き、受けとめるようにしている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の足がかりで利用される方もいるが、それはそれで、今、そして今後を見据えて支援、対応している。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌い、一緒に料理し、手紙を読んだり、話したり喜怒哀楽を共にしている。また、畑に何か植える時などは逆にアドバイスしてもらうなど、利用者と介護者というよりも、まず人と人として支えあう関係を築いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族という事で、定期的な面会、家族が他県の際は電話、手紙で利用者を支えてもらうようにしている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がくれば、面会はできるし、馴染みの場所などは家族に連れて行ってもらうようにしている。	馴染みの人の訪問や墓参り、集会への参加など家族の協力を得て、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	やはり、合う合わないあるが、それも把握し、また、利用者個々の能力、性格も把握し、孤立することなく、円滑にいくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関わりを必要とする利用者、家族には入所時と同じように接している。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりが発する言葉を大切にしている。理由あって「帰りたい。」という人は家族に協力してもらって帰る時間をつくってもらったりしている。本人本位に検討している。	一人ひとりの「コトことばノート」につぶやきや言葉を書きとめ全員で共有し、希望や意向の把握に努めている。帰宅願望のある人は家族と相談しながら、本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を使用し、入所前に詳しく家族に書いてもらい、また、家族から利用者へ手紙を書いてもらったり、本人からもできるかぎり聞き出すようにしている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの能力、性格、心身状態を管理者、全職員が把握し、それに応じた役割を与えている。自ら夕方になると草取りや水まきをされる利用者いるが、自発的なものは任せるようにしている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に、分かれ道の時には家族と念入りに話し、個別に訪問看護など利用したりもしている。毎月手紙を送っているのも、それにより家族も状態を把握しているのも、来訪時に話し、介護計画等に役立っている。	ユニット毎に毎月1回のカンファレンスを開催し、把握した利用者の思いや家族の意向、受診時の医師のコメントなどを参考にし、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を始め、体調の変化により報告を密にしないといけなくなれば、専用ノートを作成し、事細かに情報を共有するようにしている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、美容院、買い物の付き添いなど、本人、家族の要望に応じて柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りの先生にきてもらって、踊りを教えてもらったり、見たり、小学生の演奏を聞いたり、民生委員の方には施設見学含め、一緒に歌を歌ったり食事をしたりして理解してもらい、支援している。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が決めた病院がある時はそちらの、特にない場合は当ホームのかかりつけ医への受診を支援している。	本人や家族から納得が得られたかかりつけ医を大切に、事業所との関係を築きながら、事業所の協力医の月1回の訪問診療を受けられるようにするなど、適切に医療を受けられるよう支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、准看護師が2名職員にいる。また、何かあればかかりつけ医に電話し、指示してもらえるようになっており、訪問看護センターにも相談に応じてもらっている。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを提出し、情報交換できるようにしている。入院中も通常の見舞い、時に利用者で見舞いに行ったりして、その際に状況を把握、情報交換するようにしている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に、その人の幸せを考えて支援している。医療が伴い、医療機関を利用した方がその人にとって幸せならば、入院など、家族の意向、かかりつけ医の意見、見解を聞くなどして、支援している。	入居時に指針の説明をし、同意書もらい、重度化した場合は本人・家族等と話し合い事業所で出来ることを説明し、かかりつけ医の意見、家族、職員等チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、必要な知識を蓄えている。ヒヤリはっとにより、その都度対応策を皆で話し合っ決めて、個別の事故防止にも役立てている。訓練等は不定期に行っている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっとや事故防止のための研修を行い、その都度改善策を検討し、事故防止に取り組んでいる。急変や、事故発生時の初期対応の定期的な訓練は行っていない。	・事故発生時の初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への通報訓練も併せて避難訓練を行い、消火器訓練を毎年している。地域との協力体制は、話し合い中。	昼夜を問わず利用者が避難出来る通報訓練、消火器使用訓練、避難訓練を年1回実施している。地域との協力体制は検討中である。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者、全職員、ひとりひとりを思いやりながら介護している。個人情報管理も雇用契約時に誓約書にサインしてもらい、徹底している。	ミーティングで言葉かけや人格尊重・プライバシーについて研修し、一人ひとりを大切にし、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話しを良く聞き、自己決定できるように働きかけている。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝含め、ひとりひとりのペースを大切にしている。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	乳液等使用する人はなくなれば、一緒に買い物に行くし、美容等で本人の希望の店等あれば、そこに連れて行くようにしている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はみなさんの好みを把握しており、準備、調理、盛り付け等、利用者中心でやっている。	三食共事業所で調理し、利用者、職員で食材の準備、調理、盛り付け、後片付けを一緒に行い、食事を楽しんでいる。特に片付けについては「モンテッソーリ教育」を採り入れ、利用者一人ひとりの力を活かしながら、楽しい雰囲気であるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の把握をはじめ、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、ひとりひとりの状態を把握し徹底している。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりに細かい排泄チェック表があり、それによりパターンを知り、誘導すべき人は誘導している。	一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声かけや誘導等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底、決まった時間の排便誘導、毎日の運動など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が多い安全な時間帯に入浴をするよう支援している。一応、隔日にしているが、毎日入りたいという人やその他希望があればそれに添う支援をしている。	入浴は隔日で14時～17時としているが、希望があれば毎日入浴でき、個々に応じたシャワー浴、足浴等入浴支援をしている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい人は横になって過ごされるし、お昼寝したい人はお昼寝している。その人の性格、認知症の症状等考慮して支援している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。また、糖尿病の利用者も数名おり、変化が見られる時にはかかりつけ医に連絡し情報提供、こちらの意見も述べ指示を仰いでいる。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が好きな人は料理を、般若心経を唱えていた人はみんなの前で般若心経を唱え、踊りが好きな人はみんなの前で踊るなど、場面場面で主役になってもらっている。	料理、般若心経を唱える人、踊り、縫物等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとなど日々が楽しく、喜びのある生活が送れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は佐波川の土手沿いを散歩したり、庭で日光浴をしたり、歌を歌ったりしている。また、家族にも協力してもらい、外食、ドライブ、散策など連れて行ってもらっている。	天気のよい日は土手沿いを散歩したり、庭で日光浴をしたり、買い物、ドライブ、外食等家族の協力を得ながら出かける支援をしている。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が良いところで、自然の光、風を感じることができる。自然の景色が五感に働きかけるようになっている。	玄関には季節の花、椅子やテーブル、たくさんの写真、食堂兼居間には手書きの絵や歌詞が貼られ、読んだり歌ったり、様々な刺激が五感に働きかける工夫をしている。自然の光や風を感じ、不快な刺激もなく居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを工夫しておいており、決めたわけではないが、それぞれが自分の座る位置を把握しており、テレビを見るなり、会話を楽しむなりにしている。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	腰が悪い人には服などは下の棚に入れ取りやすいようにしたり、本人のその時の身体状態に合わせてタンス位置、ベッド位置を変えたりして快適に生活できるようにしている。好みの物も自由に置いてもらっている。	使い慣れた筆筒が持ち込まれ、本人の状況に合わせて、筆筒やベッドの位置や高さを変えるなど本人が居心地良く生活できるように支援している。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりで車いす移動されても、手押し車で移動されても、広々とした通路を確保し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ニコニコ創

作成日: 平成 22年 12月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	マニュアル、ヒヤリはっと、日頃の気づきにより、その都度対応策を皆でカンファレンスし、個別の事故防止、事故発生に備えているが、定期的な訓練を行っていない。	看護師、準看護師を中心として、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、全職員に実践力を身につける。	事故防止の取り組みや事故発生時の備えについて、何が必要不可欠か、職員間で話し合い、理解しやすいマニュアルを作成し、それをもとに看護師、準看護師を中心として、定期的な訓練をしていく。	6ヶ月
2	36	施設内での防災訓練は実施しているが、地域との協力体制が確立されていない。	災害時、地域との連携がとれる環境をつくる。特にご近所との協力体制が確立されるようにする。	防災訓練をする際は、消防署の協力を得て実施し、地域住民の方々に回覧板などで訓練実施日を報告し、参加していただくことで、災害時の地域との協力体制を築いていく。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。